

米国銀行業における規制と適正自己資本の歴史的流れ

1980年から1994年を中心として

千葉商科大学大学院 藤野君江

本論文は、国際決済銀行の新しい自己資本比率(新 BIS 規制)が 2006 年から導入されること熟考し、日本の金融行政のあり方を考えるために米国の歴史的流れから教訓を引出す研究を意図したものである。他国の制度を研究することは、わが国の金融制度及び金融機関市場の研究に深く結び付いており、最終的にはわが国の制度研究へ回帰すると考える。

本論文は、FDIC 調査統計部が 1980～1994 年代にかけての歴史の教訓をまとめた(原文)History of the Eighties Lesson for the Future: An Examination of the Banking Crises of the 1980s and Early 1990s (1997) 報告書を用いて教訓を引出すことを目的としている。米国銀行業の立法と規制が成立した根拠やその妥当性が、日本の金融監督行政のあり方を考える上での前提となる論点を提供しようとするものである。

キーワード： 金融行政、銀行規制、自己資本比率